

佐藤清明と牧野富太郎

牧野富太郎(1862-1957)は、高知県出身の日本を代表する植物学者である。生涯に1,500種以上もの新種記載や、名著『牧野日本植物図鑑』の出版など、植物分類学分野で多大な業績を挙げた一方、全国の民間研究者と植物標本や情報の交換を行い、各地で開かれる植物講習会の講師を務めるなどして、彼らの育成にも尽力した。佐藤もその教えを受けた一人である。

昭和初期、当時20代であった佐藤は植物方言名の収集・研究に精力的に取り組み、牧野が発行する『植物研究雑誌』にもイタドリやハコベの方言調査報告を投稿していた。牧野の佐藤宛書簡には、研究上の助言や要望(例えば、方言名は発音通りに文字化することなど)が丁寧に記され、佐藤の活躍に期待する牧野の姿がうかがえる。さらに、佐藤



昭和6年(1931)5月13日付の牧野の佐藤宛書簡(イタドリの方言について) 牧野が佐藤に贈ったネマガリダケの標本(倉敷市立自然史博物館蔵)

の植物標本コレクションには、牧野から譲渡された竹筴類の標本が50点も含まれており、両者の親密な交流の様子を伝えている。若き日の佐藤は、偉大な植物学者の指導を仰ぎつつ研鑽を積み重ね、将来の博物学者への道を歩み始めていたのである。その過程で佐藤は牧野から何を学び取り、自らの研究にどう反映させていったのか。佐藤自身の遺した資料からの新たな発見が待たれる。

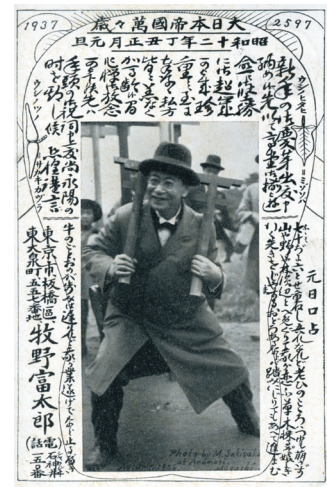
教育者としての佐藤清明

佐藤清明は昭和6年(1931)から、昭和62年(1987)までの56年間、清心女学校・清心女子高等学校に生物科の教師として勤務した。手作りの掛け図・カラースライド・8ミリフィルムを使用して、大きな声でわかりやすく授業する独特のスタイルで、生徒に非常に人気があった。佐藤は教員生活を通して、生徒達に、身の回りの全ての生きとし生けるものに興味を持ち、観察する心を説いた。佐藤の博物学の精神は、現在の清心女子高等学校などに脈々と受け継がれている。



清心女子高等学校での佐藤(年代不明)立っているのが佐藤

清心女子高等学校・中学校が発行する「紀要」には、「伯耆大山の昆虫相」(1968)、「岡山県に自生する固有植物」(1969)、「岡山県における固有動物」(1971)、「世界の国花」1977・1979)、「岡山県野生植物目録」(1980)、「岡山県産昆虫類目録」(1982)、「岡山県産昆虫類目録一脈翅類」(1984)、「岡山県産昆虫類目録-蜻翅類」(1986)などの論文を発表している。



昭和12年(1937)牧野から送られた年賀状

佐藤清明関わった天然記念物の一部

佐藤の研究は、観察や調査から得られた詳細なデータを積み上げ考察するフィールドワークが主体であり、県下の天然記念物の指定審査を行い、適切な保護保存策を指導した。一連の指定物件は、国指定天然記念物の鯉ヶ窪湿生植物群落をはじめ、動物関係ではカワシンジュガイ、ヒメボタルなど、植物関係では黄金杉、阿知の藤、住吉島の樹林など、地質関係では浪形岩、八丁驟準平面など30件で、旧制度指定を加えると100件を超える。



カワシンジュガイ「岡山県重要文化財図録」より



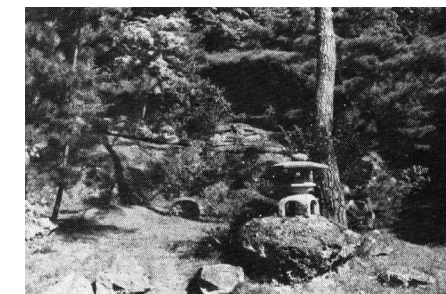
鯉ヶ窪湿生植物群落(新見市提供)



ヒメボタル(新見市提供)



八丁驟準平面(吉備中央町提供)



浪形岩「岡山県文化財総合調査報告10」より



出典『岡山県の天然記念物Ⅰ』渡辺義行著

佐藤清明資料保存会(里庄町立図書館内) 〒719-0301 岡山県浅口郡里庄町大字里見2621番地
TEL.0865-64-6016 FAX.0865-64-6017 E-mail: slnet@slnet.town.satosho.okayama.jp



発行・佐藤清明資料保存会
平成31年3月1日

里庄の偉人

博物学者 佐藤清明

日本で初めての妖怪事典『現行全国妖怪辞典』出版
植物学・動物学・民俗学など多彩な分野で活躍